1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470300286		
法人名	社会福祉法人　大和福寿会		
事業所名	グループホーム　やすらぎの里　　ユニット名　壱番地の1		
所在地	宮城県塩釜市字伊保石30－1		
自己評価作成日	平成29年　1月17日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成　29　年　2　月　27　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人では、介護老人保健施設、老人短期入所施設、診療所、薬局を併設しており、医療、看護、介護の切れ目ない連携を実践し、地域社会に安心・安全を提供しています。又、町内会にも加入し、イキイキ体操や茶話会、町内会の行事に参加し地域との関係を密にし、積極的に地域の一員として交流を深めている。町内会の方々も、運営推進会議、行事等に参加下さり、防災訓練では多大な協力を頂いている。施設見学会を行い地域の介護における相談役として貢献している。
ユニット間での交流もあり、クラブ活動や季節の行事、外出支援等行い職員と共に楽しみを持つことで、信頼関係を深めている。「できること」「できないこと」を職員が把握、共有することで、入居者様が安心して穏やかに生活出来るように統一した支援に心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台に位置する千賀の台団地にあり、敷地隣は竹・雑木の自然林が続き、静かな環境である。ユニットリーダー兼介護計画作成者とホーム長で構成する「栄養管理」「身体拘束廃止・高齢者虐待防止」「事故防止」委員会がある。委員を中心に毎月の棟会議で話し合い、入居者の思いや好みの把握してケアに努めている。書道と園芸クラブがあり、花の栽培・畑作業など入居者の思いを受け入れ、楽しみに繋げている。ホームの新年会・夏祭り・敬老会に地域住民を招待し、地元民謡サークルなどの皿踊りや、太鼓の演奏披露などの参加交流がある。前回の目標達成計画は、継続して取り組むとしている。

V．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　グループホーム　やすらぎの里　　)「　ユニット名　壱番地の1　　」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念、BS法を用いて作成した棟毎の理念があり、玄関に掲示している。毎月棟会議でケアを振り返り、実践につなげる努力をしている。	年度末に理念の確認をし継続にした。ユニット毎に「安心して」「やりたいこと」「馴染みの継続」など、それぞれの理念を掲げている。入居者が楽しく暮らすために、見守りを意識したケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、相互の行事に参加することで交流を深めている。町内会の総会や防災訓練、運営推進会議などで交流し意見を交わしている。	千賀の台公園での地域の夏祭りや、集会所に飾る七夕作りの手伝い、塩釜みなと祭りパレードなどに参加している。ホームの新年会や敬老会、夏祭りに地域住民を招待し、多数の参加交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に認知症について理解を得る機会を設けている。防災訓練にも参加いただき、入居者との交流を深めてる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を実施。参加者からの意見を受け止めサービス向上に活かしている。	団地内の不審者情報があり、会議の中で警察署員の講和を依頼し、防犯対策の勉強会をした。地域住民との協力体制づくりや、防犯カメラ設置プレート取付けの助言があり、実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただいている。また市の担当者からの情報の提供を受けたり、必要時には報告や相談をしている。	利用料滞納の相談をした際に、地域包括支援センターを交えての対応で改善された。介護認定更新手続きで、定期的に担当窓口に行っている。市主催のケア会議研修案内が毎月あり、参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、毎月会議を行い、身体拘束が行われていないか確認している。また、勉強会やマニュアルを通して共有している。	常に傾聴する姿勢で接している。動き出した時に制止せずに見守る。「物がなくなった」との訴えには「一緒に探しましょうか」などの声掛け・工夫で寄り添っている。話し合いで気付いたことや意見を共有し、拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置し、毎月会議を行い、虐待が行われていないかを確認している。また、勉強会やマニュアルを共有している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、勉強会を開き学んでいる。青年後見人とは協力し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、入所後も疑問点はいつでも尋ねていただけるよう声をかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族と面談を行い、意見を聞く場を設けている。各棟に意見箱を設置している。運営推進会議の後など、懇談し意見を聞く場を設けている。	入居者から「おにぎりと漬け物を食べたい」と要望があり、家族と一緒の豚汁パーティーを実施し、調理も共にしての触れ合いで、「久しぶりに母との料理を楽しんだ」などの感想が聞かれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や会議の場で、意見を聞く機会を設けている。	ゴミ置き場清掃の当番制や水道の蛇口交換など、気付いた提案を反映させて改善している。夜間時の服薬について、医師に相談して助言を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	何時でも就業規則が閲覧出来る。日頃から状況把握、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加することで、スキルアップが図れるよう努めている。来年度更に研修参加の機会が増えるようにするのが課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修へ参加し、ネットワークを作り始めているところである。情報交換等を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の調査段階で本人や今まで支えてきた方と面談、関係機関からの情報を提供いただき安心出来る環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み受付の段階で話を伺い、入所後も面談する機会を持ち、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後に必要とされるであろう支援を、面談の中で見極め、対応出来るよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事に合わせて役割を持って頂き、職員と一緒に行う事で、共に暮らす者としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月お手紙「かけはし」で近況を報告し、行事への参加や受診の協力などで、共に支える支援者としての関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会時には、ゆっくりと過ごせるように環境を整えている。お手紙などのやり取りが出来るよう支援している。	絵手紙の友人や、知人の来訪がある。隣接するデイサービスに日々、市介護支援員のボランティアが訪れ、顔馴染みの人と一緒に紙芝居などを楽しんでいる。親しみのある塩釜神社にもよく行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合えるよう配慮し、孤立しないよう職員が交流の支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者についても、入居者や家族の相談に応じ、交流を継続するよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わり合いの中から想いや希望をくみ取る努力をしている。家族との関わり合いを大切にし、想いや希望がくみ取れるように努めてる。毎月の棟会議で職員間で共有している。	会話は目線を合わせ、笑顔で話すことを心掛けている。プリンなどのおやつ作り、パッチワーク、書道など好きなことや得意なことを捉え、楽しみに繋げている。話せない方は歌やスキンシップなどで、表情を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の調査により本人や家族と面談し、生活歴を共有している。入所後も日々の会話を大切にし、情報を棟会議などで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り時や会議の場で、一人ひとりの生活状態や心身の状態などを把握し、共有に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向をくみ取った上で日々の申し送りや棟会議の中で現状を把握し、担当者情報シートによりプランに対しての達成状況を把握し、担当者会議、家族面談報告書を経て介護計画を作成している。	毎月のサービス担当者会議で、職員の気づきや意見を聞いている。医師の助言が入った日々の支援記録、情報シート、アセスメント表を計画書作成に反映させている。6ヵ月毎と状況変化により随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや毎月の棟会議、毎日の支援記録や観察記録など、職員間で情報が共有出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取り介護を念頭に、往診などを利用出来る体制がある。入居者や家族の要望に合わせ、外出や外泊、買い物などの要望に対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や各種イベント、買い物などに参加する事で楽しく充実した生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人から、かかりつけ医の要望を受けている。ホームでは嘱託医と歯科の往診支援をしている。また、往診クリニックの受診も支援している。家族対応の受診に際しては、受診に必要な情報を手紙に記し、医師の助言を受けている。	敷地内の協力医が、毎週来訪する。月2回の往診診察、以前からのかかりつけ医への定期通院など、それぞれの要望に添って受診している。通院の時は家族と一緒に職員も付き添い、支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて都度看護師へ報告・相談・連絡をし、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、病院や家族と連携を取り合い、退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期への対応指針を重要事項説明書へ記載し、入居時に本人・家族に説明し同意を得ている。	重度化や終末期ケアの体制があり、状態の変化それぞれの段階で医師を交え、家族の要望を確認しながら支援している。退院後に「ホームでの生活」を希望があり、看護師や医師の協力を得ながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、対応している。初期対応の確認を勉強会などで行っている。また、緊急時の連絡体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路を掲示し、自衛消防隊を編成している。年2回、地域住民参加にて昼夜想定の防災訓練を行っている。震災セット、AEDを玄関に配置。避難経路・消火器配置場所を掲示している。	消防署員から「避難口を2ヵ所確保」の助言を訓練に取り入れた。地域住民が参加し、車椅子使用者の誘導や、避難後の見守り協力があった。緊急通報装置に登録している隣接する介護施設と協力体制がある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、否定しない介護を心掛けている。本人や家族と相談し、本人が快く応える呼び方を選択している。表情・言動・行動を大切に支援するよう心掛けている。今出来ている事が継続出来るよう心掛けている。	教えてもらう、急かさないで見守るなどの姿勢を心掛けている。失禁時は耳元でそっと「用事があるから」の言葉で浴室に誘っている。居室に入る時は、ノックと「入ってもいいですか」の言葉をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情・言動・行動を大切に、声掛けの工夫で想いを表せるよう促し、自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調・表情・言動・行動から本人の意向をくみ取るよう日々努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択を優先し、選択出来ない方には季節や気候に合った清潔で快適な身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューを掲示している。準備や片付けが出来る方には手伝って頂いている、職員も共に食事をし、嗜好なども把握している。	入居者が好きな魚や、煮物料理が多く入った献立になっている。正月や敬老祝いの、鮪刺身膳は喜ばれている。地域住民も利用している法人敷地内の社員食堂に、ラーメンやカツ丼などの好物を食べに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士による。食事量・水分量を把握し、本人に合った食形態を検討し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の自立度に応じて準備や声掛け、介助を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、本人の排泄パターンを把握しトイレで排泄出来るよう支援している。排泄用品の使用枚数を把握し、トイレ誘導により使用枚数を少しでも減らせるよう努力している。	排泄パターンに添った声掛け誘導や、そわそわする・立ち上がるなどのサインを見逃さず、トイレでの排泄を支援している。各棟2名前後の方が自立している。希望で夜間だけポータブルトイレを使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック・水分量の把握・毎日の活動などで便秘の予防に努めている。必要に応じ看護師・医師へ報告し、指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせた入浴を心掛けている。入浴が苦手な方については、声掛けやタイミングを工夫し、週2回以上入浴出来るよう支援している。	夕食後や毎日、同姓介助など、それぞれの希望に合わせて入浴している。季節の菖蒲湯、ゆず湯、きんかん湯などがある。介護度が高く入浴が困難な方は、隣接介護施設の機械浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立されている方については自由にして頂いている。訴えられない方については表情や行動などに気を配り誘導している。空調や照明に配慮し、湯たんぽ等も活用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬状況について把握している。各フェイスシートにも記載している。個人名の入った服薬ポケットの利用。飲み込み確認し、空袋を確認後、空袋ポケットへ。誤薬・服薬忘れ防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加・嗜好品の提供・買い物や外出支援など、個人に合わせた楽しみや張り合いが提供出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の安全を確保する為玄関等施錠している。希望があば職員と散歩や買い物などが出来るよう支援している。訴えのない方にも地域活動への参加やドライブなどが楽しめるよう支援している。	暖かく天気が良い日は周辺を散歩し、近くのコンビニでパンや煎餅などの買い物をしている。御釜神社の初詣、多賀城の菖蒲祭り見物など、季節ごとの外出行事がある。ドライブでマリンゲートや、塩釜神社、松島方面に出掛けている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と事前に確認した上で、電話や手紙のやり取りを支援している。手紙が読めない方にも、大切な人からの手紙がいつも見られるよう居室に飾っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のレイアウトを利用者と共に制作し飾っている。利用者との会話を多く持つよう心掛け、意向の確認をしながら空間づくりをしている。	食堂兼リビングは広くて明るい。床暖房で程よい暖かさになっている。廊下などに書道などの作品を展示し、行事の写真を飾っている。大画面テレビとソファがあり、寛ぎの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分のペースで居場所が選択出来るよう支援している。居室で入居者同士や面会者が共に過ごすなど、自由な生活が提供出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族協力のもと、本人の馴染みの物を持参して頂き、安心して過ごせる居室になるよう考慮している。	エアコンやベッド、洗面台が備え付けられている。使い慣れた箪笥やチェストの上に、趣味の小物や縫いぐるみ、写真を置いている。友人からの絵手紙を壁面に飾るなど、思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内の環境整備に努め、安全に自立した生活が出来るよう努めている。職員や利用者同士が協力して活動出来る場が作れるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470300286		
法人名	社会福祉法人　大和福壽会		
事業所名	グループホームやすらぎの里　　ユニット名　壱番地の2		
所在地	宮城県塩釜市字伊保石30-1		
自己評価作成日	平成29年　1月　31日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成　29年　2月　27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人では、介護老人保健施設、老人短期入所施設、診療所、薬局を併設しており、医療、看護、介護の切れ目ない連携を実践し、地域社会に安心・安全を提供しています。又、町内会にも加入し、イキイキ体操や茶話会、町内会の行事に参加し地域との関係を密にし、積極的に地域の一員として交流を深めている。町内会の方々も、運営推進会議、行事等に参加下さり、防災訓練では多大な協力を頂いている。施設見学会を行い地域の介護における相談役として貢献している。
ユニット間での交流もあり、クラブ活動や季節の行事、外出支援等行い職員と共に楽しみを持つことで、信頼関係を深めている。「できること」「できないこと」を職員が把握、共有することで、入居者様が安心して穏やかに生活出来るように統一した支援に心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台に位置する千賀の台団地にあり、敷地隣は竹・雑木の自然林が続き、静かな環境である。ユニットリーダー兼介護計画作成者とホーム長で構成する「栄養管理」「身体拘束廃止・高齢者虐待防止」「事故防止」委員会がある。委員を中心に毎月の棟会議で話し合い、入居者の思いや好みの把握してケアに努めている。書道と園芸クラブがあり、花の栽培・畑作業など入居者の思いを受け入れ、楽しみに繋げている。ホームの新年会・夏祭り・敬老会に地域住民を招待し、地元民謡サークルなどの皿踊りや、太鼓の演奏披露などの参加交流がある。前回の目標達成計画は、継続して取り組むとしている。

V．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　グループホームやすらぎの里)「ユニット名　壱番地の2　」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念及び、棟の理念を職員で作成している。玄関や職員が意識できるところに提示し、実践につなげる努力をしている。	年度末に理念の確認をし継続にした。ユニット毎に「安心して」「やりたいこと」「馴染みの継続」など、それぞれの理念を掲げている。入居者が楽しく暮らすために、見守りを意識したケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域集会所で行われるイキイキ体操に参加し、町内会の方々とお茶を飲んだり運営推進会議や敬老会、町内会のイベント等に参加している。	千賀の台公園での地域の夏祭りや、集会所に飾る七夕作りの手伝い、塩釜みなと祭りパレードなどに参加している。ホームの新年会や敬老会、夏祭りに地域住民を招待し、多数の参加交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流の場に参加し理解して頂いている。また、運営推進会議に参加していただく事で支援について話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しており、報告や話し合いを行ってサービスの向上に活かしている。	団地内の不審者情報があり、会議の中で警察署員の講和を依頼し、防犯対策の勉強会をした。地域住民との協力体制づくりや、防犯カメラ設置プレート取付けの助言があり、実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や認知症カフェなどでケアについて情報交換などを行い、協力関係を築いている。	利用料滞納の相談をした際に、地域包括支援センターを交えての対応で改善された。介護認定更新手続きで、定期的に担当窓口に行っている。市主催のケア会議研修案内が毎月あり、参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上から安心・安全なケアをする上で、玄関の施錠を行っているが、利用者、ご家族様には説明している。他の身体拘束は行っていない。その他、毎月会議で確認をし、勉強会やマニュアルを通して共有している。	常に傾聴する姿勢で接している。動き出した時に制止せずに見守る。「物がなくなった」との訴えには「一緒に探しましょうか」などの声掛け・工夫で寄り添っている。話し合いで気付いたことや意見を共有し、拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議等において内部研修を行っている。また、職員同士の声をかけあい注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については重視している。後見人制度を利用されている方については、関係者と情報交換を行い協力関係を築いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、疑問点などあれば随時説明して納得して頂けるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置し、意見をのべる機会を作っている。またそれを反映させている。面会時に意見や要望があれば説明を行い理解が図れるようにしている。	入居者から「おにぎりと漬け物を食べたい」と要望があり、家族と一緒の豚汁パーティーを実施し、調理も共にしての触れ合いで、「久しぶりに母との料理を楽しんだ」などの感想が聞かれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や都度話し合ったり毎月の棟会議で話し合い反映させている。	ゴミ置き場清掃の当番制や水道の蛇口交換など、気付いた提案を反映させて改善している。夜間時の服薬について、医師に相談して助言を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	何時でも就業規則が閲覧出来る。日頃から状況把握、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修への参加やスーパーバイザーの指導でスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェに参加し、事例等についての検討会や他グループホームのお祭りへの参加等でサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話をする事で想いに気づき、また、ご家族様からの事前情報を考慮し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み受付の段階で話を伺い、入所後も面談する機会を持ち、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の聞き取りと観察からまずは早急に見極め対応している。他のサービスについては、状況に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する上で家事等を一緒に行ったり、レクリエーション等で楽しく会話している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設への面会時は、居室でゆったりと過ごして頂いたり、状況について報告、相談等で関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他入居者や職員とのコミュニケーションを取る事で、馴染みの関係を築いている。また、他棟職員も声をかけ関係を築いている。	絵手紙の友人や、知人の来訪がある。隣接するデイサービスに日々、市介護支援員のボランティアが訪れ、顔馴染みの人と一緒に紙芝居などを楽しんでいる。親しみのある塩釜神社にもよく行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	興味の有りそうな話題を提供する事で利用者同志が談笑されている。また、出来る利用者が出来ない利用者を見守り職員と共に支え合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも状況についての相談や、他サービス利用についての相談・支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で想いを話されるので、出来るだけ希望、意向に応えられるよう検討している。	会話は目線を合わせ、笑顔で話すことを心掛けている。プリンなどのおやつ作り、パッチワーク、書道など好きなことや得意なことを捉え、楽しみに繋げている。話せない方は歌やスキンシップなどで、表情を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のご家族様からの情報や何気ない日常の会話から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の棟会議において職員の観察により現状の把握に努めている。変更時は共有している、。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向をくみ取った上で日々の申し送りは棟会議の中で現状を把握し、担当者情報シートによりプランに対しての達成状況を把握し、担当者会議、家族面談を経て介護計画を作成している。	毎月のサービス担当者会議で、職員の気づきや意見を聞いている。医師の助言が入った日々の支援記録、情報シート、アセスメント表を計画書作成に反映させている。6ヵ月毎と状況変化により随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや毎月の棟会議、毎月の支援記録や観察記録など、職員間で情報を共有しプランに反映出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取り介護を念頭に、往診などが利用できる体制が出来ている。入居者や家族の要望に合わせ、外出や外泊、買い物など要望に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や各種イベント、買い物などに参加する事で楽しく充実した生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人からかかりつけ医の要望を受けている。ホームでは嘱託医と歯科の往診支援をしている。また、往診クリニックの受診も支援している。家族対応の受診に際しては、常に面会時に状況報告し、医師の助言を受けている。	敷地内の協力医が、毎週来訪する。月2回の往診診察、以前からのかかりつけ医への定期通院など、それぞれの要望に添って受診している。通院の時は家族と一緒に職員も付き添い、支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて都度看護師へ報告・相談・連絡をし、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、病院や家族と連絡を取り合い、退院後の受け入れについても相談支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期への対応指針を重要事項説明書へ記載し、入居時に本人・家族に説明し同意を得ている。また、そのような状態になったときに再度説明を行っている。	重度化や終末期ケアの体制があり、状態の変化それぞれの段階で医師を交え、家族の要望を確認しながら支援している。退院後に「ホームでの生活」を希望があり、看護師や医師の協力を得ながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、対応している。初期対応の確認を勉強会などで行っている、。また、緊急時の連絡体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路を掲示し、自衛消防隊を編成している。年2回、地域住民参加にて昼夜想定の防災訓練を行っている。震災セット、AEDを玄関に配置。避難経路・消火器配置場所を掲示している。	消防署員から「避難口を2ヵ所確保」の助言を訓練に取り入れた。地域住民が参加し、車椅子使用者の誘導や、避難後の見守り協力があった。緊急通報装置に登録している隣接する介護施設と協力体制がある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、否定しない介護を心掛けている。本人や家族と相談し、本人が快く応える呼び方をしている。表情・言動・行動を大切に支援するよう心掛けている。今出来ている事が継続出来るよう心掛けている。	教えてもらう、急かさないで見守るなどの姿勢を心掛けている。失禁時は耳元でそっと「用事があるから」の言葉で浴室に誘っている。居室に入る時は、ノックと「入ってもいいですか」の言葉をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情・言動・行動を大切に声掛けの工夫で想いを表せるよう促し、自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調・表情・言動・行動から本人の意向をくみ取るよう日々努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択を優先し、選択出来ない方には季節や気候に合った清潔で快適な身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューを掲示している。準備や片付けが出来る方には手伝って頂いている。嗜好なども把握に努めている。	入居者が好きな魚や、煮物料理が多く入った献立になっている。正月や敬老祝いの、鮪刺身膳は喜ばれている。地域住民も利用している法人敷地内の社員食堂に、ラーメンやカツ丼などの好物を食べに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士による。食事量・水分量を把握し本人に合った食形態を検討し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の自立度に応じて準備や声掛け、介助を行っている。義歯使用の方は、夜間帯洗浄液に付けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、本人の排泄パターンを把握しトイレで排泄出来るよう声掛けや誘導をしている。トイレの場所が分からない時は誘導している。	排泄パターンに添った声掛け誘導や、そわそわする・立ち上がるなどのサインを見逃さず、トイレでの排泄を支援している。各棟2名前後の方が自立している。希望で夜間だけポータブルトイレを使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック・水分量の把握・毎日の活動などで便秘の予防に努めている。必要に応じ看護師・医師へ報告し、指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の承諾を得て入浴を行っている。入浴が苦手な方については、声掛けやタイミングを工夫し、週2回以上入浴出来るよう支援している。	夕食後や毎日、同姓介助など、それぞれの希望に合わせて入浴している。季節の菖蒲湯、ゆず湯、きんかん湯などがある。介護度が高く入浴が困難な方は、隣接介護施設の機械浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立されている方については自由にして頂いている。訴えられない方については表情や行動などに気を配り誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬状況について把握している。各フェイスシートにも記載している。個人名の入った服薬ポケット利用。飲み込み確認し、空袋を確認後空袋ポケットへ。誤薬・服薬忘れ防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加・嗜好品の提供・買い物や外出支援など、個人に合わせた楽しみや張り合いが提供出来るよう計画支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の安全の確保する為玄関等を施錠している。希望があれば職員と散歩や買い物などが出来るよう支援している。訴えのない方にも地域活動への参加やドライブなどが楽しめるよう支援している。	暖かく天気が良い日は周辺を散歩し、近くのコンビニでパンや煎餅などの買い物をしている。御釜神社の初詣、多賀城の菖蒲祭り見物など、季節ごとの外出行事がある。ドライブでマリンゲートや、塩釜神社、松島方面に出掛けている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には所持して頂いている。購入したい物がある時は、買い物できるよう計画や支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んでいる家族様との電話の取次ぎをしたり、手紙の投函の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあったレイアウトを利用者と一緒に制作し飾っている。利用者との会話を多く持つよう心掛け、意向の確認をしながら空間づくりをしている。	食堂兼リビングは広くて明るい。床暖房で程よい暖かさになっている。廊下などに書道などの作品を展示し、行事の写真を飾っている。大画面テレビとソファがあり、寛ぎの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分のペースで居場所が選択出来るよう支援している。居間や居室で入居者同士や面会者が共に過ごすなど自由な生活が提供出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族協力のもと、本人の馴染みの物を持参して頂き、安心して過ごせる居室になるよう考慮している。	エアコンやベッド、洗面台が備え付けられている。使い慣れた箪笥やチェストの上に、趣味の小物や縫いぐるみ、写真を置いている。友人からの絵手紙を壁面に飾るなど、思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内の環境整備に努め、安全に自立した生活が出来る場が作れるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470300286		
法人名	社会福祉法人　大和福壽会		
事業所名	グループホームやすらぎの里　　ユニット名　壱番地の3		
所在地	宮城県塩釜市字伊保石30-1		
自己評価作成日	平成 29 年 2 月 10 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成　29年　2月　27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人では、介護老人保健施設、老人短期入所施設、診療所、薬局を併設しており、医療、看護、介護の切れ目ない連携を実践し、地域社会に安心・安全を提供しています。又、町内会にも加入し、イキイキ体操や茶話会、町内会の行事に参加し地域との関係を密にし、積極的に地域の一員として交流を深めている。町内会の方々も、運営推進会議、行事等に参加下さり、防災訓練では多大な協力を頂いている。施設見学会を行い地域の介護における相談役として貢献している。
ユニット間での交流もあり、クラブ活動や季節の行事、外出支援等行い職員と共に楽しみを持つことで、信頼関係を深めている。「できること」「できないこと」を職員が把握、共有することで、入居者様が安心して穏やかに生活出来るように統一した支援に心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台に位置する千賀の台団地にあり、敷地隣は竹・雑木の自然林が続き、静かな環境である。ユニットリーダー兼介護計画作成者とホーム長で構成する「栄養管理」「身体拘束廃止・高齢者虐待防止」「事故防止」委員会がある。委員を中心に毎月の棟会議で話し合い、入居者の思いや好みの把握してケアに努めている。書道と園芸クラブがあり、花の栽培・畑作業など入居者の思いを受け入れ、楽しみに繋げている。ホームの新年会・夏祭り・敬老会に地域住民を招待し、地元民謡サークルなどの皿踊りや、太鼓の演奏披露などの参加交流がある。前回の目標達成計画は、継続して取り組むとしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　グループホームやすらぎの里　)　「　ユニット名　壱番地の3　」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	BS法を用いて、各棟ごとに理念を作成している毎朝の各棟の申し送りで唱和している	年度末に理念の確認をし継続にした。ユニット毎に「安心して」「やりたいこと」「馴染みの継続」など、それぞれの理念を掲げている。入居者が楽しく暮らすために、見守りを意識したケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。月に二回のダンベル体操に参加して町内会の方々との交流を深めている。またお互いに行き来している	千賀の台公園での地域の夏祭りや、集会所に飾る七夕作りの手伝い、塩釜みなと祭りパレードなどに参加している。ホームの新年会や敬老会、夏祭りに地域住民を招待し、多数の参加交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、認知症について理解して頂けるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて話し合った内容をサービスの向上に活かしている	団地内の不審者情報があり、会議の中で警察署員の講和を依頼し、防犯対策の勉強会をした。地域住民との協力体制づくりや、防犯カメラ設置プレート取付けの助言があり、実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただいている市の担当者から情報提供を受けたり報告、相談をしている。計画作成担当者から推進会議の案内をしている。	利用料滞納の相談をした際に、地域包括支援センターを交えての対応で改善された。介護認定更新手続きで、定期的に担当窓口に行っている。市主催のケア会議研修案内が毎月あり、参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を行ない、毎月確認している、勉強会を行なっている。 理念を作成し職員間で共有している	常に傾聴する姿勢で接している。動き出した時に制止せずに見守る。「物がなくなった」との訴えには「一緒に探しましょうか」などの声掛け・工夫で寄り添っている。話し合いで気付いたことや意見を共有し、拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を行ない、毎月確認している。勉強会を行なっている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行ない理解を深めている。成年後見人を利用されている方は現在いないが、回覧などで理解をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項など説明を行ない、改定時などにも説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時など、家族様との面談を行ない、要望や意見などを運営に反映させている	入居者から「おにぎりと漬け物を食べたい」と要望があり、家族と一緒の豚汁パーティーを実施し、調理も共にしての触れ合いで、「久しぶりに母との料理を楽しんだ」などの感想が聞かれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや会議で随時でる意見や提案を運営に反映させている	ゴミ置き場清掃の当番制や水道の蛇口交換など、気付いた提案を反映させて改善している。夜間時の服薬について、医師に相談して助言を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より職員とコミュニケーションを図り、働きやすい職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外の勉強会や研修を受ける機会を確保し、ｽｷﾙｱｯﾌﾟをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者の勉強会に参加したり、情報交換を行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の実態調査や面会などで本人の話を聞き取り、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み受付時によく話を伺い、サービス開始後も面談する機会を作り、信頼関係をつくるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際によく面談し、今必要な支援を見極めるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など、本人の残存能力を生かした事を行なって頂き、共に暮らす者という関係を築く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月お手紙を出し、近況を伝えると共に、受診など協力して支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会時ゆっくりと過ごせるような環境を整えている。お手紙などのやり取りをして頂けるよう努めている。	絵手紙の友人や、知人の来訪がある。隣接するデイサービスに日々、市介護支援員のボランティアが訪れ、顔馴染みの人と一緒に紙芝居などを楽しんでいる。親しみのある塩釜神社にもよく行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り孤立しないような関係づくりに努めてる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても定期的に連絡を取る等し、相談に応じられるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、希望や意向を汲み取る努力をしている。棟会議で情報を共有している。	会話は目線を合わせ、笑顔で話すことを心掛けている。プリンなどのおやつ作り、パッチワーク、書道など好きなことや得意なことを捉え、楽しみに繋げている。話せない方は歌やスキンシップなどで、表情を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の調査により、本人や家族と面談し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りや棟会議で、一人ひとりの心身の状態を把握し共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態を観察しながらケア計画の進捗をモニタリングし、担当者で話してケアプランに反映している。	毎月のサービス担当者会議で、職員の気づきや意見を聞いている。医師の助言が入った日々の支援記録、情報シート、アセスメント表を計画書作成に反映させている。6ヵ月毎と状況変化により随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや棟会議など、また支援記録などで職員間で情報の共有が出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様のニーズに沿って外出・外泊、また主治医の変更、外部サービスの活用なども取り入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加、近隣の商業施設等への外出、ドライブなど。学生ボランティアなどの受け入れを行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族からかかりつけ医を聞き、必要に応じて往診などへの変更を受け付けている。	敷地内の協力医が、毎週来訪する。月2回の往診診察、以前からのかかりつけ医への定期通院など、それぞれの要望に添って受診している。通院の時は家族と一緒に職員も付き添い、支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送りや日々の業務の中で生じた情報や問題を看護師または訪問看護師に伝えて指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院や家族と連携を取り必要な情報提供をし、退院にむけ支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期への対応を契約の際説明し、同意を得ている。	重度化や終末期ケアの体制があり、状態の変化それぞれの段階で医師を交え、家族の要望を確認しながら支援している。退院後に「ホームでの生活」を希望があり、看護師や医師の協力を得ながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、対応している。勉強会を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や連絡網の整備を行なっている。所属する町内会との連絡体制も確保している。	消防署員から「避難口を2ヵ所確保」の助言を訓練に取り入れた。地域住民が参加し、車椅子使用者の誘導や、避難後の見守り協力があった。緊急通報装置に登録している隣接する介護施設と協力体制がある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にした声掛けを心掛けている。本人が安心出来る声掛けをしている。	教えてもらう、急かさないで見守るなどの姿勢を心掛けている。失禁時は耳元でそっと「用事があるから」の言葉で浴室に誘っている。居室に入る時は、ノックと「入ってもいいですか」の言葉をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情・しぐさなどから希望を汲み取り、本人が自己決定出来るような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のその方の様子や言動をみて希望に添えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	言語または非言語コミュニケーションで、本人に合う身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳など手伝って頂いたり、本人の嗜好を配慮した食事を楽しんで頂いている。　栄養管理委員会で嗜好調査を行ない把握している	入居者が好きな魚や、煮物料理が多く入った献立になっている。正月や敬老祝いの、鮪刺身膳は喜ばれている。地域住民も利用している法人敷地内の社員食堂に、ラーメンやカツ丼などの好物を食べに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人が好む形態や盛り付けを工夫して、必要な栄養・水分が摂れる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後居室にて本人の力に応じて見守りまたは介助を行ない口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、声掛け誘導または、オムツ交換を行なっている。 紙パンツから布パンツへ変更したりしている	排泄パターンに添った声掛け誘導や、そわそわする・立ち上がるなどのサインを見逃さず、トイレでの排泄を支援している。各棟2名前後の方が自立している。希望で夜間だけポータブルトイレを使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、水分や食事量・活動量などを把握し、必要に応じて看護師・医師の指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今までの習慣に合わせ本人の意思を確認しながら入浴のタイミングを調整している。	夕食後や毎日、同姓介助など、それぞれの希望に合わせて入浴している。季節の菖蒲湯、ゆず湯、きんかん湯などがある。介護度が高く入浴が困難な方は、隣接介護施設の機械浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人が望まれる所で休息し、夜間は安眠出来るような環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのカルテにて、内服薬の情報を確認している。確実に服薬出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴に沿った趣味や得意な事などを考慮して、家事やレクリエーションに参加頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や健康状態・精神状態に合わせ、戸外へ散歩をしたりご家族との外出支援や季節毎の外出行事を行なっている。	暖かく天気が良い日は周辺を散歩し、近くのコンビニでパンや煎餅などの買い物をしている。御釜神社の初詣、多賀城の菖蒲祭り見物など、季節ごとの外出行事がある。ドライブでマリンゲートや、塩釜神社、松島方面に出掛けている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な方は所持、難しい方は必要時に家族様に用意して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族様と確認した上で、電話や手紙のやり取りを行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適にお過ごし頂けるような環境づくりに努めている。また、季節に合ったレイアウトを工夫している。	食堂兼リビングは広くて明るい。床暖房で程よい暖かさになっている。廊下などに書道などの作品を展示し、行事の写真を飾っている。大画面テレビとソファがあり、寛ぎの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室と居間の他にも、玄関にソファーを置くなどし、ご本人が自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を頂き、馴染みの物を持参いただいたり、本人が安心して過ごせる居室レイアウトを工夫している。	エアコンやベッド、洗面台が備え付けられている。使い慣れた箪笥やチェストの上に、趣味の小物や縫いぐるみ、写真を置いている。友人からの絵手紙を壁面に飾るなど、思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内の表示など、目線の高さや大きさ、わかりやすさを工夫した表示を心掛けている。		